

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東宮下小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいため個別に必要な支援を講じていく必要がある。ドリルパーク等の個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。また、国語の主語・述語に6学年中4学年で改善がみられたため、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」への取組を全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	学習過程を見直し、活動の中に共同編集を位置付け、計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりする。根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くことに課題がみられたため、教科横断的な視点として、体験的な活動を通して、自分の言葉に根拠を持たせられるように児童の指導にあたる。また、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】漢字や計算問題において、正答数が半数に満たない。 【指導上の課題】児童が反復・習熟に取り組み時間の設定が不十分である。	⇒ ドリルパークやミニニスト等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。その際、児童の学習履歴を確認し、目に見えぬ形で提示し、学習の伸びが実感できるようにする。【月に1度の実施】。授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。また、振り返りをかまへ、授業において、児童とともに必要のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業10分実施】。
思考・判断・表現	【学習上の課題】国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い。 【指導上の課題】児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒ 児童が作品、ノート、ワークシート等に取り組み、評価の観点を明確に示し、児童が思考したプロセスにコメントや花丸等を付記して、評価する。【毎回実施】。活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現しようとしていくことができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	毎授業の始めに練習を活用した漢字や計算の反復練習が習慣化し、自校テストの結果に伸びがみられた。また、朝自習の中で週に1回「チャレンジ国語・チャレンジ算数」を設け、ドリルパークを活用した漢字や計算の習熟を図ることができた。振り返りを書く際に、主語と述語を明らかにしながら書くことを全教科で徹底し、R6年度さいたま市学習状況調査の国語「言葉の使い方や使い方にに関する事項」では、同集団比較において全学年でR5年度の結果を上回った。 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問事項では、R6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合が90%を超えた。
思考・判断・表現	B	単元計画を見直し、活動の中に共同編集を10分間位置付け、協働的な学びにつなげることができた。児童が思考したプロセスにコメントやリアクション機能で毎回、評価することができ、R6年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、無解答率がR5年度調査より全学年で低くなった。R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問事項において、肯定的な回答の割合は平均して85%であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の主語・述語の関係を抑える問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、述語についての理解はできているが、文章の最初にある単語を主語と捉えている児童が多く、主語に対する理解が不十分であると考えられる。また、文を構成する語句が増えるとともに正答率が低くなる傾向もみられる。 問題を図や絵を用いて読み取る活動や、具体物操作や実験的な活動を多く取り入れるなど、体験的な活動を通して知識を獲得する学習活動を展開する。また、基礎的な内容を繰り返す学習を通して、児童に「できた」を味わうことができる学習を推進する。
思考・判断・表現	算数の「図形」領域において課題がみられた。図形の形に合わせた面積を求める式を選ぶ問題の無解答率が高いことから、公式の意味の理解が不十分であると考えられる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は88%であることから、共同編集等、協働的な学びの機会をさらに確保しながら、図形の求積公式を扱う際には、「なぜその公式になるのか」を考えた説明したりする活動を重視したい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「正しい漢字に直す問題」において課題が見られた。その漢字の意味を考えて使うことができていないと考えられる。昨年度課題が見られた「小数の減法の問題」では、類似問題の経年での比較より、正答率の上昇が見られた。引き続き、計算の方法を繰り返し行う活動を大切にしていきたい。
思考・判断・表現	理科「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が低く、同領域の異集団比較において、昨年度の結果を5、6年ともに下回った。特に、継続して同じ条件で実験を行うために実験方法を見直す問題の平均正答率が低いことから、観察、実験などを行った後に適切な方法であったかを確認する活動が不足していることが考えられる。同じ実験を行ったにもかかわらず他のグループと違う結果になった場合や、実験を複数回行ったときにばらつきが生じた場合にその要因を見だし、実験の方法を検討し、必要に応じて改善する学習活動を増やしていきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	毎授業の始めにミニニストを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む、個別に学習への自信をつける一連の流れを形成できた。自己の振り返りができる時間を毎時間設定しているが、時間内に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	C	児童が思考したプロセスに対して、コメントを付記できたのは2回に1回程度であった。活動の中に共同編集を位置付けることができず、協働的な学びにつなげることができなかった。	児童が作品・レポート等に取り組み、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスにコメントまたはリアクションを付記して、評価する【毎回実施】。協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるように、活動の中で共同編集やコメントの送り合いを実施する【毎単元10分実施】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)